

医療用粘着テープ使用マニュアルの効果 ーICU領域での用途に適した使い方ー

1病棟3階東

○古谷めぐみ 田中寿江 床本直美 竹岡正江 中村由子 小坂まり子 羽嶋則子

1. はじめに

CCMCには、さまざまな病態の重症患者が入室し、創の保護やカテーテル等の固定に医療用粘着テープ（以下テープと略す）を頻繁に使用している。しかし、患者の多くはその病状により皮膚本来の生理作用が低下しており、しばしば発赤、表皮剥離等のスキントラブルを生じることがある。

私達は、平成7年の研究において、CCMCでよく使用されているテープをアレルギー反応と機械的皮膚刺激という二つの観点から実験し、スキントラブルの軽減につながるテープを知ることができた。

また、ICU領域では使用目的や部位、患者の病態などによりテープの用途が多岐にわたり、スキントラブルを予防しつつテープの使用目的を達成するには、スタッフ全員が共通の理解をし、用途に適したテープを正しい手技で使い分けることが重要である。そのためには、テープを正しく使用できるためのテープ使用マニュアル（以下マニュアルと略す）が必要と感じた。そこで今回、用途に応じたテープの種類、使用方法と正しい貼り方剥がし方をまとめたマニュアルを作成し、その活用と効果について調査したので報告する。

2. 研究方法

(1) マニュアル作成(資料1.2)

①平成7年の研究結果とその後の使用経験から、4種類のテープ（マイクロポア[®]、シルキーテックス[®]、シルキーボアドレッシング[®]、ソフポア[®]）を選択した。（表1）

②テープの選び方と正しい貼り方、剥がし方についてまとめた。

③テープの特性に応じた使用方法を用途別に表にまとめた。

(2) 調査1：対象；平成8年12月～平成9年1月にCCMCへ入室した患者33名（アレルギーのある人を除く。年齢、性別、疾患は問わない）

データ収集方法；マニュアルに基づき、治療上必要な用途に応じてテープを貼付し、24時間後にスキントラブルの有無、程度と固定性を観察した。

データ分析方法；パッチテストの国際基準ICDRG制定を参考にし、スキントラブルの程度を点数化した。（表2）固定についても判定基準を設け、点数化した。（表3）

(3) 調査2：対象；CCMCの看護スタッフ24名。

データ収集方法；マニュアルを作成後、ナースセンター内に掲示し、マニュアルに基づいた実施を依頼した。その2カ月後、マニュアルの効果を知るためにアンケートを配布し、回答を得た。

データ分析方法；アンケートの回答結果から、マニュアルについてのスタッフの理解度と達成度を分析し、有効な意識づけができたかを評価した。

3. 結果と考察

調査1

マニュアル作成後のスキントラブル発生件数は、209件中12件で、マイクロポア[®]が31件中3件、シルキーテックス[®]が135件中3件、シルキーポアドレッシング[®]が33件中5件、ソフポア[®]が10件中1件であった。また、スキントラブルの程度は、いずれも1～2点以内で合計15点であった。(表4)

固定のトラブルは209件中3件で、ほとんどが保持良好であった。

マニュアルに従い、皮膚刺激の少ないテープを用途に応じて使用し、テクニックを改めたことがトラブルの減少につながったと考える。

調査2

マニュアルはスタッフ全員が読んだと答えたが、実際に活用できたと答えた者は24名中21名で3名が活用できていなかった。その理由として、貼り方剥がし方がまだ正しく出来ていない、以前の慣習からマニュアル以外のテープを使用したという回答があった。

テープの貼り方が正しく出来ていない理由は、急ぐあまりテープを片側から引っ張りながら貼付したため皮膚を緊張させたり、貼付面積や貼付後の圧迫が不足したため、短時間で剥がれてしまうなどが考えられる。剥がし方が正しくできていない理由は、テープの端が見つかりにくい時に浮いている所から鋭角に剥がして皮膚を必要以上に引っ張ったり、勢いよく剥がしてしまうなどが考えられる。

このような誤った手技は、皮膚の角質を損傷、剥離させるため、発赤、びらん、水疱形成、痛み等のスキントラブルを引き起こしたり、創感染やカテーテルなどの抜去事故にもつながる。今後は貼付、剥離の方法を再度指導し、慣れていく必要がある。

マニュアル以外のテープ使用で最も多く見られたのは、ドレーン固定でのエラテックス[®]の使用であった。以前からの慣習や、医師が好むからといった理由であった。エラテックス[®]は、粘着剤がゴム系であるため通気性に乏しく、のり残りがあるためスキントラブルの要因になりやすい。

その他では医師らが誤った操作で貼付、剥離したり、マニュアル以外のテープを使用するケースが多くみられた。そこで、看護スタッフ以外の医療従事者にも伝達できるように、各ベットサイドにマニュアルを大きく掲示し、不適切なテープを除去した。

以上の結果からマニュアルの活用方法には徹底できていない部分もあったが、マニュアルの有効性については、作成後スキントラブルや固定のトラブルが減った、手技や皮膚の観察など意識して行うようになったという意見が18名あり、マニュアルは使用者の意識的行動の変化、つまり使用目的に合った使い方の啓蒙として意義があり、有効であったと考える。

4. まとめ

(1) スタッフ全員が共通の理解をし、用途に適したテープを正しい手技で使い分けるために

マニュアルを作成した。

- (2) 調査の結果では、マニュアルの活用の徹底により、皮膚刺激が少なく用途に応じたテープの使い方を明らかにすることができ、スタッフの意識を向上することができたと考える。
- (3) 現在、多種多様なテープが開発されており、製品により異なる特性を持っている。従って、医療スタッフ全員がテープについて常に関心を持ち、新しい知識と正しい技術が定着するように、マニュアルは改良を加えながら活用する必要がある。

5. おわりに

CCMCでは、一般病棟で急変した患者や術直後の患者が高い割合を占めており、すでにスキントラブルや固定のトラブルを生じている者も少なくない。重症な病態のスキントラブルは治療しにくく、患者の苦痛も大きい。また、固定のトラブルは新たな合併症の原因にもなりうる。そこでCCMCだけにとどまらず、手術部や病棟とも情報を交換し、理解を深めることが大切と考える。

<参考文献>

- 1) 上出良一：スキントラブルの原因、よく分かるスキンケアマニュアル、エキスパートナース、Mook15、24～31、1993.
- 2) 富岡秀幸他：新たな低刺激性粘着剤の心臓血管手術後患者への使用経験、ハートナーシング、Vol. 8, No. 8, 48～50, 1995.
- 3) 穴澤貞夫他：ドレッシング新しい創傷管理、90～203、へるす出版、1995.
- 4) 佐藤エキ子他：絆創膏、各種テープによるスキントラブルとケア、JJNスペシャル No13、スキンケア、68、1989.
- 5) 米山美佐夫：人工透析患者の絆創膏かぶれに対する検討、月刊ナーシング、Vol. 14, No. 13, 116, 1994.

表1 使用テープ

テープ	支持体	粘着剤
マイクロポア [®]	レーヨン不織布	アクリル系
シルキーテックス [®]	спанテックス織布	アクリル系
シルキーポア ドレッシング [®]	ポリエステル不織布	アクリル系
ソフポア [®]	ウレタン不織布	アクリル系

表2 スキントラブルの判定基準

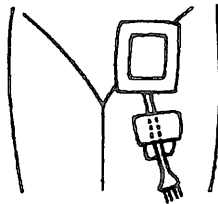
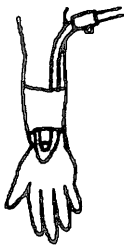

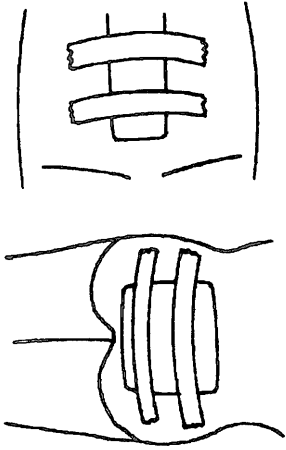
反応なし	0
発赤	1
水疱形成	2
表皮剥離	3

表3 固定性の判定基準

24時間固定可能	1
24時間一部保持可能	2
24時間連続保持不可	3

表4 マニュアル作成後のスキントラブル発生状況

テープ	マニュアル作成後		
	貼付数	発生件数	合計点
マイクロポア [®]	31	3	5
シルキーテックス [®]	135	3	3
シルキーポア ドレッシング [®]	31	5	6
ソフポア [®]	12	1	1
合計	209	12	15

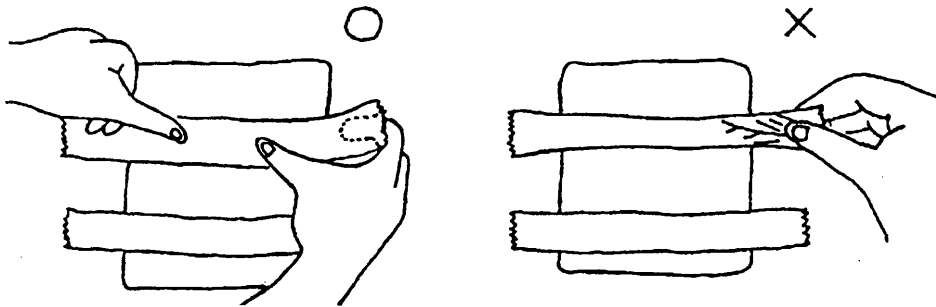
用 途	テ ー プ	使 用 法
I V H スワンガンツ ダブルルーメン など	シルキーポア ドレッシング® シルキーテックス®	そけい部の場合  刺入部に シルキーポア ドレッシング® 延長上に シルキーテックス® カテーテルをくるむ ように2枚重ねる
動脈ライン 末梢ルート	カットバン® シルキーテックス®	 刺入部に カットバン® 周囲に シルキーテックス® 4～5枚
気管内チューブ	大人 シルキーテックス® 小児 ソフポア® デュオアクティブ®	大人； 経口 経鼻 小児； 経鼻 
ガーゼ固定	胸腹部、四肢 マイクロポア® 殿部 ソフポア® マイクロポア®	

資料2 用途別マニュアル

テープ使用時のポイント

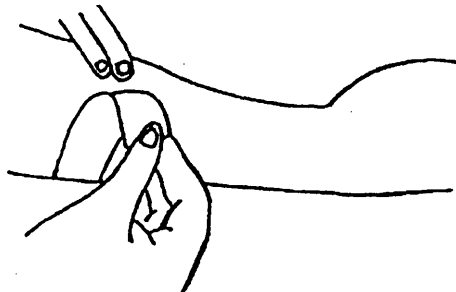
1 貼付時の注意点

- ・貼付部を清潔にしてから貼付する。
毛深い所は剃毛する。清拭後、よく乾燥させる。
- ・定期的に部位を変えて貼る
- ・皮膚は自然の伸展状態で、不必要な緊張をかけない
- ・貼付面積は必要最小限にする
- ・貼付後、一定の圧を加えて貼付を確実にする



2 剥離時の注意点

- ・皮膚を手で押さえながら、体毛の方向にゆっくりと剥がす。
- ・90～150度の角度でテープを折り返すようにして剥がす。
- ・必要以上の強い力で剥がさない。
- ・一度貼付したテープは、あまり短時間内に剥がさない。
- ・角質剥離を避けるため、テープの剥離は最小限にする。



3 テープの選び方とその他の注意点

- ・テープアレルギーの有無などを、事前にチェックしておく。
- ・アプリケーション表のテープを第一選択とする。
- ・トラブルを生じたテープは直ちに使用を中止し、各テープの特徴と患者の状態を考慮して、他のテープに変更する。もし可能なら、テープを使わない方法を考える。(包帯使用など)
- ・浮腫などで皮膚が脆弱になっている患者には、粘着性の弱いテープを使用する
(マイクロポア[®]、ソフポア[®]など)
- ・特に脆弱な部位には、皮膚保護材を使用する。
- ・体動が多い部位には刺激が強く現れやすいので、粘着剤が柔らかく皮膚の動きに追従できるものが望ましい。(シルキーテックス[®]、ソフポア[®]など)

資料1 手技マニュアル